

関係各位

Library of the Year 2013 優秀賞の決定および最終選考について

「Library of the Year(ライブラリー・オブ・ザ・イヤー)大賞・優秀賞」は、これからの日本の公共図書館のあり方を示唆する、先進的な活動を行っている機関(図書館に限らない)に対して、NPO 法人知的資源イニシアティブ(IRI)が毎年授与する賞です。

2013年は、IRIメンバーおよび外部推薦で寄せられた24施設・団体・サービスの中から、下記の4機関が優秀賞に選ばれ、大賞の最終選考対象となりました。

●伊那市立図書館

iPad/iPhone アプリケーション「高遠ぶらり」を活用した「街中探索ワークショップ」や、地域通貨「りぶら」の活用など、図書館というハコや仕組みの枠を超えた新鮮な提案とその推進により、新しい公共空間としての地域図書館の可能性を拓いている点が評価されました。

<http://www.city.ina.nagano.jp/list.rbz?nd=500&ik=1&pnp=500>

●千代田区立日比谷図書文化館

館の目的として掲げた、「図書館機能」、「ミュージアム機能」、「文化活動・交流機能」、「アカデミー機能」という、従来の図書館機能に博物館・学習・交流の機能を統合した複合施設として、それぞれの分野で新しい事業・業務展開に意欲的に取り組んでいる点が評価されました。

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1番4号

<http://hibiyal.jp/>

●長崎市立図書館

地域の課題として「がん情報サービス」を取り上げ、県・市の行政担当部課、医療機関などと協力して展開してきた事業(がん情報コーナーの設置、レファレンスの充実、がんに関する講演会など)が、市民はもとより県・市医療機関からも高い評価を得ている点が評価されました。

〒850-0032 長崎県長崎市興善町1-1

<http://lib.city.nagasaki.nagasaki.jp/>

●まち塾@まちライブラリー

「まち」毎に「まちライブラリー」(学びあいの場)を設け、そこで受講者自らが課題を持ち込み、グループで議論し、「まち」を元気にするプランを作り、実行していくことを目指した活動です。情報・知識の交換・創造の場を作る取り組みが広がっていることが評価されました。

<http://machi.is-library.jp/>

また、今年は「特別賞」として、「図書館戦争」(原作者、出版者、映画関係者、関係する図書館等、ムーブメントとして)を表彰いたします。

<最終選考について>

2013年10月29日(火)午後3時30分～5時00分、パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)にて、今回決定した優秀賞4機関を対象として、一般公開の最終選考会を開催いたします。最終選考会では、各機関についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを経て、審査員7名(選考会一般参加者の1票を含む)の投票によって大賞を決定します。併せて、大賞機関および優秀賞機関の表彰式を行います。

この最終選考会は、パシフィコ横浜で開催される第15回図書館総合展(2013年10月28日～11月1日)の一環として行われます。

<Library of the Year について>

「Library of the Year」は、IRIの選考を担当する委員会(委員長:昭和女子大学特任教授 大串夏身)が中心となり、図書館など全国の知的情報資源に関わる機関を対象として授与する賞で、2006年に始まりました。

選考基準は、以下のとおりです。全国の公共図書館を総合的に評価して、ベストの図書館を決めるものではありません。

- ①今後の公共図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行なっている。
- ②公立図書館に限らず、公開された図書館的活動をしている機関、団体、活動を対象とする。
- ③最近の1～3年間程度の活動を評価対象期間とする。

過去の授賞機関は以下のとおりです(詳しくはIRIホームページ内“Library of the Year”をご覧ください <http://www.iri-net.org/loy/>)。

第1回の“Library of the Year 2006”の大賞は、鳥取県立図書館が受賞しました。県全域を対象として、学校、企業、公的機関など様々な県内の機関と連携しながら、地域に関わって活動することにより、地域の役に立つ図書館をめざす、というこれからの図書館のあり方を示した点が評価されました。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=46587>

第2回の“Library of the Year 2007”の大賞は、愛荘町立愛知川図書館が受賞しました。図書館員がそれぞれの専門分野を持ち、町づくりに積極的に関わっている点が評価されました。

http://www.town.aisho.shiga.jp/pdf/koho/0801/ais_pr080112.pdf

第3回の“Library of the Year 2008”の大賞は、千代田区立千代田図書館が受賞しました。都心型図書館の新しいモデルとなることを意識し、図書館コンシェルジュ、古書店と連携した展示・販売仲介、電子図書貸出サービスなど数多くの新規サービスを展開し、地域の様々な機関との連携を進めたことが評価されました。

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/koho/pressrelease/h20/h2011/h201127-02.html>

第4回の“Library of the Year 2009”の大賞は、大阪市立中央図書館が受賞しました。HP が四ヶ国語で作られるなど「開かれた図書館」を実践している点、データベースの数が多く利用が簡単であるなど、図書館でのデータベース利用のモデルを示している点が評価されました。

<http://www.oml.city.osaka.jp/topics/jushou-loy.html>

第5回の“Library of the Year 2010”の大賞は、カーリルが受賞しました。全国5,000館を超える図書館・図書室蔵書の横断検索サービスとして、従来の図書館系のサイトWeb サービスを凌駕している点、図書館界に留まらず大きな話題となった点が評価されました。

http://blog.calil.jp/2010/11/library-of-year-2010_29.html

第6回の“Library of the Year 2011”の大賞は、小布施町立図書館が受賞しました。「交流と創造を楽しむ文化の拠点」として、各種イベントの実施や地元の方100人のインタビューの電子書籍化を行うなど、小布施文化や地域活性化の拠点としての活動を進めている点が今後の地域の公共図書館の在り方の参考となる点が評価されました。

<http://www.machitoshoterrasow.com/loy2011.html>

第7回の“Library of the Year 2012”の大賞は、ビブリオバトルが受賞しました。「人を通じて本を知る／本を通じて人を知る」というコンセプトを掲げた知的書評合戦として、全国大会が行われるほどの盛り上がりを見せており、継続的に行われていること、各地で開催されていることなども評価されました。

<http://www.bibliobattle.jp/whatsnew/libraryoftheyear2012dashangshouhangnogobaogao>

■お問い合わせ先 NPO 法人知的資源イニシアティブ事務局 info@iri-net.org

<http://www.iri-net.org/loy/>